沖縄教区報・道しるべ

発行所：日本基督教団沖縄教区　〒901-2213 宜野湾市志真志 4-24-7　電話(098)898-4363／FAX(098)897-6963(教区事務所)
発行人代表：羽柴　禎　　編集：沖縄教区報・『道しるべ』編集委員会　E-mail　okikyoku@yahoo.co.jp

第 82 回 沖縄教区定期総会　開催

第 82 回沖縄教区定期総会が 2022 年 5 月 29 日（日）～30 日（月）に開催された。ここでは常置委員会への付託事項について報告する。

第 4 回常置委員会（2022 年 9 月 25 日）は、2022 年度～2023 年度常設委員（会計監査委員）に及川和枝（コザ教会主任担任教師）、新垣恵子（首里教会信徒）２名を選任した。

◇2022～2023 年度　常置委員会、各部・委員会
総会付託事項：各部・委員会委員の未定分及び常置委員会の陪席についての整理。
【常置委員会：定数 9】羽柴　禎（議長）、具志堅　篤（副議長）、玉城凉子（書記）、城間枝都子（信徒）、仲本　瑩（信徒）、山口八重子（信徒）、上地　武（教職）、高多　新（教職）、上門米子（推薦）
［陪席］川崎正志（宣教部）、伊波美智子（財務部）、又吉京子（沖縄キリスト教センター館長）、外間永二（幹事）

【会計監査】及川和枝、新垣恵子

【宣教部】川崎正志（長）、望月　智（書）、金井　創（会）、高里鈴代、仲地弘隆、野間光顕、吉澤　信、吉川尚伸　［陪席］外間永二（幹事）
【財務部】伊波美智子（長）、仲本　瑩（書・会）、上地　武、具志堅　篤、国吉和雄、外間永二

＜常設＞
【教師委員会】羽柴　禎（長）、玉城凉子（書）、外間永二（会）、具志堅　篤、仲本　瑩
【「教区報・道しるべ」編集委員会】仲本　瑩（長）、島しづ子、林　利行　［陪席］外間永二（幹事）

＜特設＞
【カルト問題特設委員会】****
【教区交流委員会】仲本　瑩（長）、仲里和花、又吉京子
【教区互助献金委員会】田実三男（長）、羽柴直子（書・会）、花城静子、普天間ともえ
［陪席］城間枝都子（常置委員）
【教区史編纂委員会】高多　新（長）、伊波美智子、外間永二

＜常置委員会の下にある＞
【「研修センターなきじん」管理運営委員会】芳澤　信（長）、高多　新（書）、玉城凉子（会）、上地　武（財務部）、佐久川マベル（沖縄キリスト教センター）　［陪席］羽柴　禎（現地）
【災害救援委員会】三浦洋一（長）、金井　創、吉川尚伸　［陪席］又吉京子（沖縄キリスト教センター館長）、芳澤　信（研修センターなきじん）、高多　新（常置委員）
【沖縄キリスト教センター運営委員会：定数 8】宇佐美節子（長）、望月　智（書・宣教部）、仲本　瑩（会・財務部）、外間永二（幹事）、大城美佐子、仲宗根幸子、徳門米子、西村愛里
【八重山・宮古宣教委員会：定数 8】坂口聖子、増田陽一、小倉隆一、川崎正志、金井　創（宣教部）、上地　武（常置委員）※10 月 30 日の委員会にて決定
【教区霊園管理運営委員会】具志堅　篤（長）、佐久川マベル（書・会）、安谷屋正浩、大森節子、国吉和雄、外間永二、宮里　稔
【F. キソール記念事業準備委員会】具志堅　篤（長）、安里小百合、伊波美智子、神山美代子、高里鈴代、玉那覇正信

▷次号の『沖縄教区報・道しるべ』の発行は次の通りです。◁
◇284 号　総会号（2023 年 2 月）

●●● 投稿案内（皆さんの投稿、話題、川柳などの作品等を募集しております）

◇『沖縄教区報・道しるべ』編集委員会では、教区の皆様の身近なニュースや話題、意見、提言等を広く求めています。明日の教区のため投稿をお待ちしております。

【要項】600 字内で、沖縄教区事務所へ『道しるべ投稿』と明記の上、メール、ファックスまたは郵送して下さい。随時受け付けております。なお、画像はモノクロ処理となります。
沖縄教区事務所：〒901-2213　沖縄県宜野湾市志真志 4-24-7　ＦＡＸ０９８-８９７-６９６３
E-mail　okikyoku@yahoo.co.jp

２０２２年度沖縄教区教師研修会

宗教法人関係の書類の作成と保存、提出について

２０２２年１１月１３日（日）　沖縄キリスト教センター

「地の塩、世の光」として説教する伊波美智子牧師

2022 年度沖縄教区教師研修会が 11 月 13 日（日）、午後 4 時より沖縄キリスト教センターに於いて開催された。

開会礼拝（司式・説教:伊波美智子、奏楽:外間永二）の後、羽柴禎沖縄教区教師委員会委員長より、「宗教法人が事務所に備え就けてかなければならない書類と、所轄庁へ提出する書類について」の発題があり、会計関係を除く書類関係の研修を行った。（所轄庁＝沖縄県庁総務部私学課）

沖縄教区は会計年度が 4 月 1 日～翌 3 月 31 日となっており、その年の 7 月 31 日までに提出となっている。宗教法人の設立の別なく、教会記録（教会総会議事録、役員会議事録、教会員名簿）等の、宗教法人に準じた作成が強調された。教師研修会での研修内容は信徒も関りが深く、知ってもらいたいとの方針で信徒の参加も呼びかけられた。

研修後引き続き、巡回教師について協議会が開催された。協議会のたたき台として「沖縄教区巡回教師について」の羽柴禎私案が示され、説明された。骨子は①教規第 128 号の教師分類、②沖縄教区における巡回教師の働き、③沖縄教区の巡回教師に求められる資質、④巡回教師登録申請が可能な教職、⑤巡回教師登録申請の流れ、⑥勤務地・報酬及び社会保険・教団年金、⑦教区への派遣申請、⑧任期と辞任・解任、⑨巡回教師規程制定に向けた今後の準備となっている。

会場からは無牧の現状を問う声や代務者も決まっていないのに新たな制度を導入するのかという声や、資格に祈りを加えてほしいという声がある一方、資格要件が厳しいのではないかという声もあがった。また、信徒のニーズがあるのか、無牧だからといって上から目線の派遣であってはならないとする意見もあった。現行の制度のなかで教師の情報が十分に活用される状態になく、その改善も必要。早急な制度化に反対する意見がある一方、これからの教区にとって必要ではないかとの意見もあった。具体的な教会の現場からは、教師招へいで活用できるのではとの報告もあった。

教区としては財政的な現状を勘案した報酬制度にならざるを得ないとの認識も示された。今後、周知を図りつつ、今の沖縄教区に巡回教師制度が必要かどうか含めて広く意見を募る、として活発な協議を閉じた。

発題する羽柴禎教区議長

第2回 沖縄教区宣教方策会議

～２０２２年　8月２１日（日）　沖縄キリスト教センター～

「第 2 回沖縄教区宣教方策会議」報告

会議は高多新牧師の開会礼拝で開始され、羽柴禎教区総会議長の基調報告ののち、各部・委員会の今期の活動計画が報告され、意見・要望等の交換がなされた。会議を振り返り、羽柴禎教区議長に以下、会議のとりまとめをしていただいた。

2022 年 8 月 21 日(日)16 時より、沖縄キリスト教センターにて「第 2 回沖縄教区宣教方策会議」(以下、宣教方策会議)が開催されました。宣教方策会議は 2020 年 6 月に開催された「第 80 回沖縄教区定期総会」で策定された新しい「沖縄教区宣教基本方針」を受けて、これを具体的な活動につなげていくために教区総会議長によって招集される各部・委員会の委員長会議です。2 年に一度、教区総会で新しく教区四役(三役)と各部・委員会が選ばれた年の出発式のようなものでもあります。出来れば中間報告的な意味でその翌年にも開催出来れば良いのですが、それが出来るかどうかは教区の財政事情にもよります。そこで教区議長からは「毎年『教区総会議案。報告書』に掲載される各部・委員会報告がそもそも中間報告及び総括の意味を持っているので、これを各部。委員会ともしっかり力を込めて書いて欲しい」との要望が為されました。

さて教区四役及び各部・委員会は教区の執行機関でありますが、言うまでもなくその働きは全て教区総会を通して各教会・伝道所から委ねられたものであり、教会・伝道所が求めていることを「方針」に従って行っていくということになります。委員会や委員が自分のやりたいことを自由にやって良いというものではありません。そして働きの成果は全て教会・伝道所にとっての可視・不可視の利益として還元されなければなりません。何であれ教区活動は前期。前年の慣例に倣い倣いただ漫然と繰り返されるべきではなく、継続性や積み重ねを大切にしつつも、それぞれの委員会が「そもそも教会・伝道所から何を委ねられどのような成果を期待されているのか」ということをしっかり認識して、気持ちを引き締めてスタートすることが大事です。

ただ沖縄教区は人材的にも財政的にも大変厳しい環境であることには変わりありません。そこで委員会相互の連携もこれからはとても大事な課題になってくるでしょう。足りない力を横の繋がりで補い合いながら何とか前進して行けるよう、相互協力の可能性を引き出すための新組織顔合わせの会議でもあります。本来なら会議後に交流の時間も設けるべきなのでしょうかれども、今回はまだコロナの影響下、そのことが叶わなかったのが少し残念ではありました。人とのつながりや新しいアイデアは交流の場から生まれたりもしますので、交流会の設定も会議全体の中の大事な一要素として今後実現出来ればと願っています。

(沖縄教区総会議長 羽柴 禎)

2022 年 11 月 12 日（土）

2022 年度 昇天者祈念礼拝

（説教:上地 武牧師）

2022 年度「昇天者祈念礼拝」が、2022 年 11 月 12 日（土）午後２時より浦添市字前田真和志堂にある教区霊園において開催された。これまでの「永眠者祈念礼拝」からより明記した「昇天者祈念礼拝」への名称変更となった。礼拝には 48 名余の関係者が出席。上地武牧師（首里教会）は、「永遠の命を生きる」（ヨハネによる福音書 11 章 25 節～26 節）として説教を行った。

礼拝後、コロナ禍で開催が延期されていた、霊園関係者の会の総会も併せて開催され、具志堅篤霊園管理運営委員長より 2021 年度の報告がなされた。霊園については、「霊園管理運営規定」及び「霊園納骨堂の使用規定」を整える作業が課題として残っているとしている。また、法定耐用年数（47 年）を超過した建物のメンテナンスに対する今後の対応があり、建物の調査を踏まえ、次年度に本格的なメンテナンスの実施、あるいは改築等含めて検討していくと報告された。

2022 年度の霊園管理運営委員会の構成は、次の通り第 82 回教区定期総会を経て決定している。具志堅篤（委員長）、佐久川マベル（書記・会計、沖縄キリスト教センター）、安谷屋正浩、大森節子、国吉和雄、外間永二、宮里 稔。

第３９回年頭修養会案内（宣教部）

２０２３年1月９日（オンライン）

◇沖縄教区宣教部（川崎正志委員長）より 2022 年度の「第 39 回　年頭修養会」の案内（第 1 号）が発出された（2022 年 10 月 7 日）。以下、掲載します。

2022 年 10 月 7 日
沖縄教区宣教部
委員長　川崎正志

主の御名を賛美いたします

年始恒例の沖縄教区年頭修養会ですが、今年は新型コロナウィルス感染拡大のため開催することができませんでした。そこで 2022 年度第 39 回沖縄教区年頭修養会は、オンライン(インターネットを使用して同時中継)にて開催をいたします。ご自宅にネット環境(Wi-Fi)がある場合は、パソコン、タブレット、スマートフォンなどでご参加いただけます。またご自宅に通信設備がない場合、あるいは使い方がわからないという方は、各地区の教会のご協力を得て、そこに少人数で集えるような形を考えております。

そこで各教会の皆様には、もし教会に Wi-Fi が完備されており、画面共有する形が可能であるならば、会場教会になってくださいますよう、お願いいたします。また、このような開催方法につきまして、何かご提案、ご意見がありましたら、宣教部までお寄せください。

オンライン開催ですが、できるだけ多くの皆様が参加できますよう、ご協力ください。

在主

―記―

■テーマ:「コロナ禍の教会で、できたことできなかったこと、with コロナでのこれからの宣教」
■日 程:2023 年 1 月 9 日(月・休日)午後 1 時～4 時
■会 場:会場教会とそれぞれのご自宅にて
■参加費:無料
■参加方法:ＺＯＯＭ使用、接続方法、パスコードなどにつきましては改めてご連絡いたします。
■プログラム(予定)

［1 月 9 日（月)］
13:00　それぞれでＺＯＯＭ接続/受付
13:30　開会挨拶/礼拝/オリエンテーション
　（当日の聖書、讃美歌などは当日に画面にてご確認いただけるようにします)
14:00　「写真スライドで見る ）中縄教区の教会」
14:20　発題「コロナ禍の教会で、できたことできなかつたこと、with コロすでのこれからの宣教」
　（各教会から、教会・伝道所紹介/自己紹介などと一緒に、緊急事態宣言の際にどのように礼拝を守っていたか、その方法や工夫、感想などを、5 分程度で発表していただきます)
15:00　休憩 10 分
15:10　教区アワー(議長からの報告):羽柴禎牧師(名護伝道所)
15:30　みんなで讃美歌を歌おう/主の祈り/閉会挨拶（16 時までに終了)
≪修養会に関するお問い合わせ:沖縄教区宣教部 川崎正志 ℡.080-6490-8558(携帯)≫

2022年度 クリスマス献金のお願い

沖縄キリスト教センター・宜野湾セミナーハウスの活動のために

主の平和！

「復帰」50 年を迎えた 2022 年、県内外に住む皆さまはどのように沖縄の今をとらえておられるでしょうか。世界中のコロナ感染拡大、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、ミャンマーの軍事クーデターによる人権侵害と弾圧が今も続き、自然災害が世界各地で起きています。

このような状況下にあっても沖縄キリスト教センターの働きは、皆さまのお祈りとご協力、尊い献金によって支えられ、活動を続けることができました。

私たちは平和の君イエス・キリストの誕生を喜びと感謝のうちに待ち望み、クリスマスを迎えます。当センターは、教会と地域と未来を担う子どもをはじめとするすべての世代に仕えて、神の聖名を伝えることを喜びとしています。そのためにさまざまなプログラムを用意しています。どうぞ、ご利用・ご活用ください。これからも聖書の御言葉に信頼して働きを続けて参ります。

皆さまの上に神の恵みと祝福が豊かに注がれますように、お祈りいたします。

2022 年 12 月 1 日

目標額　400万円

振込先：　ゆうちょ銀行　０２０４０－２－４４１０３　沖縄宜野湾セミナーハウス

「いと高きところでは、神に栄光があるように、

地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」。

ルカによる福音書 2 章 14 節　　(聖書協会共同訳)

沖縄教区総会 議長：　羽柴 禎
運営委員長：　宇佐美 節子
委　　員：　大城 美佐子、望月 智、西森 愛理、仲宗根 幸子、仲本 瑩、徳門 米子、外間 永二
館　　長：　又吉 京子
プログラム主事：　糸洲 のぶ子

〒901-2213　沖縄県宜野湾市志真志 4-24-7　☏ 098-898-4361 fax:098-897-6963 E メール:oki-gsh@nirai.ne.jp
ブログ：　https://seminarhouse ti-da.net　　facebook：沖縄キリスト教センターで検索

２０２３年「第 83 回沖縄教区定期総会」に向けた予定
(2022 年 8 月 21 日版)

２０２３年

［1月］

1 月 9 日（月）　年頭修養会（オンライン）

1 月 9 日（月）　［提出］教会・伝道所「教区互助申請」

1 月（調整）　教区互助ヒアリング(財務部)

1 月（日）　第 6 回常置委員会(教区互助、教区総会議案・議事日程他)

［2月］

2 月 11 日(土)　2.11 集会

2 月 15 日(水)　[発送]各部・委員会宛「次年度活動計画・予算案」「年度報告」「交通費」

2 月 15 日(水)　[発送]教会・伝道所宛「逝去者、受洗者、転入・入会者報告」「ABC 表」

［3月］

3 月 13 日(月)　[提出]各部・委員会　「次年度活動計画・予算案」「委員交通費」

3 月 26 日(日)　第 7 回常置委員会(教区総会日程・議案、教区互助、次年度予算)

3 月 27 日(月)　[発送]教会・伝道所宛「教区総会開催案内」「議員(補員)登録・宿泊」

3 月 27 日(月)　[発送]教団・教区、関係団体宛「教区総会開催案内」

［4月］

4 月 1 日(土)　教区会計決算(財務部)

4 月 3 日(月)　[提出]各部・委員会「年度報告」

4 月 4 日(火)　『議案・報告書』編集作業(教区書記)

4 月　日( )　会計監査

4 月 10 日(月)　[提出]教会・伝道所「議員(補員)登録・宿泊」

4 月 11 日(火)　推薦正議員、総会特別委員、推薦准議員選考案(四役会)

4 月 16 日(日)　第 1 回常置委員会(議案、推薦正・准議員、総会特別委員、決算・予算)

4 月 17 日(月)　教区会計決算・予算案修正(財務部)

4 月 22 日(土)　[提出]財務部「教区会計関係諸資料」完全原稿

4 月 24 日(月)　「議案・報告書」入稿→印刷

［5 月］

5 月 1 日(月)　[提出]教会・伝道所「逝去者・受洗者転入者報告」「ABC 表」

5 月 2 日(火)　「逝去者、受洗者、転入・入会者名簿」「教勢・主要収入一覧表」作成

5 月 8 日(月)　「議案・報告書」納品

5 月 9 日(火)　[発送]教会・伝道所、全議員、教団・教区宛「議案・報告書」「公告」

5 月 9 日(火)　[発送]教会・伝道所、全議員宛「ＺＯＯＭ出席・傍聴申し込み案内」

5 月 23 日(火)　当日配布資料印刷(教区書記)

5 月 26 日(金)　[提出]ＺＯＯＭ希望者(教区へＥメールにて申請)

5 月 27 日(土)　会場準備[配信]ＺＯＯＭ希望者宛「ＺＯＯＭ　ＩＤ」

5 月 28 日(日)　～29 日(月)第 83 回沖縄教区定期総会／第 2 回常置委員会

*感染症の蔓延など様々な理由で上記予定は変更になる場合があります

平良川伝道所信徒　外間 永二

信徒伝道の可能性を問い続けて

中頭地区の沖縄教区の教会・伝道所の信徒たちが、信徒の立場を生かして取り組める伝道活動を多様に考え実践してきました。それが中部伝道協議会の活動です。その最大の特徴は“信徒による伝道協議会”ということでしょう。今、沖縄教区の教会が直面している共通の問題として、信徒の高齢化が進み、働き人が少なく、教会活動が停滞していること、また、近年、若い人たちが教会に来る気配がないこと、更に教会学校も活動停止状態の教会が多くなっていることです。毎年現住陪餐会員が 18〜20 名程度減少していて、このまま何もしないでいると、私たちの時代に教会は確実に消滅していくことは目に見えている！という危機感が多くの信徒に共有され、共に祈る中で「もう一度網を降ろしてみなさい」(ルカ 5 章 4〜5) という主の呼びかけに励まされ「今からでも自分たちに出来ることを取り組んでみよう！」ということで一致し、12 年前に中伝協活動を再開し、これまで 12 回の伝道集会を計画し取り組んできました。

コロナ禍のこの３ヶ年間は伝道集会を中止するということになっていましたが、これより再開の可能性を話し合っていこうとしているところです。私たちは伝道集会の準備から本番まで必要な協議と全ての役割を信徒が担当し取り組んでいます。そして自分の最も身近な隣人である家族に、親戚に、隣近所に、仕事場の友人に、声を掛けてみたいと思っているあの人この人に、案内のチラシを手渡しながら、伝導集会にお誘いする努力を信徒伝道の基本的な活動として位置づけて取り組んでいます。

これよりどういう形で再開するか、また継続していくために大切なこととして、私たちは自らの信仰生活を大切にし、それぞれの生活と教会の場がますます大切な伝道の場となっていくように、自らも語りまた書き記し、沖縄の地にある教会の伝道に関わる人たちと共に役に立ちうる信徒伝道を継続して取り組んでいきたいと思います。

戦後大変困難な状況下を信仰に生きた第一世代の信徒の生き様を原点として、そこで示された信仰が第二世代の信徒と牧師にどのように引き継がれていったのか？そして現在活躍中の第三世代の信徒と牧師の伝道牧会は歴史的展開としてどうか？厳密に検証することが求められています。それぞれの時代を“イエス・キリストの信じた信仰”に生きた諸先輩方の経験と書き記されたメッセージに聴き、そこに示されている必要な課題と教訓を読み解き、また信徒伝道の可能性と限界をしっかりと掌握し、厳しい状況にある沖縄教区の教会がふたたび信徒伝道の機能と力を豊かに備えていけるようにするにはどうしたらいいのか？このことを問い続け、信徒の皆さんと共に担っていきたいと思います。伝道は牧師だけがやるものではない、信徒も伝道しましょう！と言われます。しかし教会の現状に問題を感じ、その問題解決のために具体的に何をどのように進めていけばいいのか？ということになると、現に中伝協も活動中断 23 ケ年ということがあったように、信徒の力の限界や弱さがあり、どうしたらいいのか分からなくなってしまうことがあると思います。そういう具体的な問題に直面したときどう打開していくのか？そこで私たちが思い至ったのは､沖縄戦を生き延び全てを失い収容所に集められた信徒たちが､その絶望の極みの中にあって､なお救いを求め祈りただひたすら賛美歌を歌う信徒たちの姿に今直面している現実が重なったことです。その信徒たちを神は慰め、そして答えられました。それは、戦後信徒の置かれた絶望的な状況下での真実の祈りに、神は信徒たちを導き教会形成へと向かわしめたのです。そこでは信徒が自発的に活動し日毎に受洗者が増えていったという。

教団からは抹消され、国からも見捨てられ、切り捨てられ、信仰も危うくなるほどにまで弱り果てていたであろう信徒たちに、大いなる主の恵みが与えられたのです。その中には按手を受け牧師になる決断をした信徒もいます。戦後壊滅的状況下の沖縄で信徒たちは“救いを求め、主を信じて歩みをおこしていったのです。それは摂理としかいいようのない信徒たちの必死の祈りに神が応えていたわり、そして導いて下さり、そこに信徒の決断的な生き様があった。戦後沖縄の教会の原点であり、その信徒の群れが戦後の沖縄の教会形成に繋がっていったのです。この収容所での信徒の「祈りと讃美」から始まったという驚くべき恵みにあやかり、私たちも「讃美礼拝」から始めようということになりましたが、それを具体化するために必要な協議の場を設定するまでには更に難しい問題がいくつもありました。私たちが苦労したのは“問題点を明確にし、それを共有し解決していくための協議の場をどう設定するか”という問題でした。戦後「愛隣園」を生み出し「相愛幼稚園」を生み出し「キリスト教学院」を生み出していった沖縄の教会が、その原点を見失ってしまったのは何故かということが今切実な問題として問われています。このことは「何が原

点を見失わせたのか」という演題で第２世代の大城牧師の講演でも語られました。いずれにしても時代を生きるキリスト者の抱え込む意識の根っこに触れたいと願う精神の緊張が私たちを支え、生活や時代状況の制約を受けながら、ともすれば活動が停滞し厳しくなりがちな信徒の意識に真摯に向き合い中伝協の活動を持続してきています。

戦後、信徒たちの伝道活動に見て取れるのは、聖書を学び、聖書に聞き、教会の問題や、その時代の切実な社会の問題に関わり、キリスト者として自らを問い、団結し問題解決に奮闘する沖縄の信徒たちの姿です。私たちの信仰の先輩たちがそうであったように、私たちも今の時代に生きるキリスト教信仰者として全ての沖縄の教会の信徒が“共通の課題”を確認し、問題解決に向けて団結し行動（伝道）することが求められています。中部の教会だけの課題ではないと思いますので、南部の教会の信徒の皆様方にも呼び掛けているわけです。その努力によって得られる大きな喜びに到達することを“共通の目標”にしたいと思います。これが信徒伝道の活動目標と目的です。

パウロは「それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すことを、知っているからである。そして、希望は失望に終わることがない。」(ローマ人への手紙第５章3～5節)と呼びかけています。

私たちはこのパウロの言葉をしっかり受け止め、これからも自分が気づき気づかされてきた全てのことを出し合って次回に繋げ、回を重ねるごとに“実りある豊かな伝道集会”にしていくためによく話し合っていこうと思います。そのために私たち信徒が協議する力をつけること、そして何が問題なのかを明確にし、その問題点を話し合って正しく認識し、物事を解決する力を付け、たえず教会を改めていく在り方を共に考えていきたいと思います。

［投稿］

コロナ禍で思うこと

首里教会　仲宗根勝子

私は、普通（平凡）に生きる事が、どんなに素敵で、すばらしい事なのか。このごろ懐かしく思います。去年の３月から教会に礼拝に出席しておりません。家庭礼拝を首里教会の週報で行っております。(事務の方が毎週送って下さり感謝です。)

私は14年前から週３回、69才で人工透析にお世話になっている身で、その上、心臓を手術したり、基礎疾患をいくつか持っていますので、三密を守らなければ、病院の方々に迷惑になるので、ソーシャルデスタンスが第一条件の生活をしなければなりません。厳しい試練だと、自分自身に言い聞かせています。

牧師さんの説教が非常に懐かしく思うこの頃です。聖書を予習し、礼拝の時間に合わせて聖書を再度読みますが、理解が出来ない所も、多々あります。牧師さんの説教が、どんなに解りやすく、私の脳裏と心に入ってきたか。教会の帰りは、清々しく、お風呂上りのような良い気持ちで、帰宅していた時が再び来てほしいです。

いつか、コロナ禍が終息し私達の平和な時間が１日も早く来ることを祈っております。

(追加)

中国武漢のコロナ説が、再浮上していますが、自然のウイルスとしては、不自然、人工的につくられたもの、変異が現れるのが、あまりに早すぎる、もし、悪魔（政治家、上位たち）の力でウイルスが造られたとしたら、恐ろしい事です。世界中にパンデミックを起こさせた責任を!!

これから、私たちはどう祈ればいいでしょうか。

2021.5.30

財務部委員会は 2022 年度の活動実施計画を策定し、委員会を通じて細部の具体的な取り組みを実施していくことを確認した。下記図は実施計画（2022. 10. 4 版）のあらましを図示したものである。

2022年度　財務部委員会　活動実施計画

2022.10.4

常置委員会
副議長:具志堅篤
教師選出:上地武
信徒選出:仲本瑩
要請陪席:伊波美智子

活動実施計画に基づき活動し、常置委員会に提議

財務部委員会
委員長:伊波美智子
書記・会計:仲本瑩
具志堅篤、上地武
国吉和雄、外間永二

・教区の適正な予算枠
・教務運営費の削減
・教区負担金引下率
・予算作成指針
・委員会予算決算書式
・勘定科目整理
・特別会計見せ方整理
・過年度未収金の扱い
・通帳整理統合
・互助伝道費整理
・会堂建築資金
・ABC表作成
・2030問題と課題
・建物類の現状把握
・土地処分の進め方

勘定科目の整理・預金通帳の整理 互助伝道費預金管理・過年度未収金管理	**会計・幹事**
教区との負担の在り方について 借入金の返済と将来計画 （意見交換）	**沖縄キリスト教センター運営委員会** 仲本瑩（要請）
管理に関すること 将来展望と計画について （意見交換）	**「研修センター」なきじん管理運営委員会** 上地武（要請）
献金計画について 互助伝道費を含めた意見交換 （意見交換）	**互助献金委員会**
「霊園管理運営規定」「霊園納骨堂使用規定」 「沖縄キリスト教センター内宣教師館維持管理規定」 その他	**規程類の整理** （特設委よりの継承）
組織構成 固定資産税対応	**清算法人関係**

◇ 沖縄教区デイキャンプ 2023 年 2 月へ延期

教区宣教部主催のデイキャンプ（11 月 3 日）は天候の関係で取りやめ、2023 年 2 月に延期となった。「しちゃま荘でバーベキュー！」（海岸清掃付き）の企画内容含め改めて宣教部よりのご案内をお待ちください。

逝去教師(2022 年度 10 月現在)

金城重明教師(93 歳 隠退教師)：2022 年 7 月 19 日に逝去され、首里教会にて上地 武牧師司式のもと、近親者のみによる葬式が執り行われました。お連れ合いの恵美子様をはじめ、ご遺族の皆様に主なる神の御慰めがありますよう謹んでお祈りいたします。

（沖縄教区総会議長 羽柴 禎）

地 の 塩　「共に礼拝する恵み」

私は 2022 年 4 月からうふざと伝道所に赴任いたしました。着任直後からコロナ禍のために、短縮礼拝、ZOOM 礼拝、メンバーを半数に分けて週替わりで礼拝するなど、種々工夫して礼拝を守ってきました。ZOOM 礼拝のみの時も、牧師と司会者と四人ぐらいは教会に集まって礼拝をしてきました。ある日曜日、久しぶりに礼拝堂に参加された方々が口々に言いました。「ZOOM で礼拝に参加してましたが、教会で礼拝するのと全然違います。礼拝堂で皆さんと一緒に礼拝するのは感動しますね。」と。牧師のメッセージのインパクトも違うそうです。礼拝堂に集う礼拝には、緊張感があり、互いの存在を感じ、聖霊が満ちるのを味わうことが出来るのでしょう。礼拝する場所が与えられている恵みを思いました。

ZOOM 礼拝の良さもあります。遠隔地からも参加できることです。以前はインドからの参加者がいました。今は礼拝堂での参加者多数となりましたが、ZOOM 配信も行い、東京、名古屋、県内からの ZOOM による参加者がいます。

沖縄では友人をお茶に誘う時「ゆんたくしない！」と声をかけますね。今までの私は、「用件のみ」の会話であり、会議のついでにお茶をし、会食するという感じでした。最近は用事に関係なく、友人とゆんたくすることの大切さを感じています。義務のようだった礼拝は、実は私たちにとって神様と語り合い、互いを感じ合う大事な恵みの時だったのですね。早くコーヒータイムや愛餐会を再開したいです。神様は私たちが孤独にならないために、隣人を与えて下さったのですね。

うふざと伝道所教師　　島しづ子

◆　編集後記　◆

道しるべ２８３号をお届けします。コロナ禍のなかで思うように発行できなかったことを、まずお詫びします。教区も各部、委員会が活動を展開する動きが見えてきました。投稿を頂きましたが掲載が遅れ、申し訳ありません。「教区報・道しるべ」の発信の在り方を検討し、他委員会ともタイアップした「ホームページ」の開設について具体的な検討に入りたいと準備を進めていきます。スピーディなしかも、経費削減につながる方策を模索していきます。これからも皆様のご意見ご感想をお寄せください。

仲本　瑩（「教区報・道しるべ」編集委員長）